

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」



<第7回>

「漁業と協同組合」

植地 基方 / 三重県漁業協同組合連合会 指導部長

第7回（11月22日）：受講52名（対面12名、リモート40名）

漁業協同組合は、水産業協同組合法に基づき組合員が必要な事業を利用するために出資し設立する非営利法人である。また、日本の漁業制度は漁業法で定められている。そのため漁業協同組合は水産業協同組合法による事業団体と漁業法による漁業権管理団体の性質をもつ。

三重県漁業協同組合連合会は、漁協や組合員と一緒にマグロの養殖企業や、伊勢まだい生産者部会、養殖生産者と養殖会社を立ち上げるなど課題や状況に即した取り組みをおこなっている。「伊勢まだい」の取り組みで得た成果は、経営の安定化を考える土台となり、魚類養殖「浜の活力再生広域プラン」の策定、安定した収入を得るための仕組みづくりへとつながっている。

【第7回／講義の要旨】

- ・漁協の主な事業は、資材や燃油等を組合員へ供給する購買、生産物等の販売、貯金・貸付等の信用、共同施設の利用、営漁指導、共済事業等がある。漁業権は漁業を営む権利であり漁村で暮らす漁民らが行政から免許を得るものである。
- ・2018年に漁業法が大幅に改正され水産資源を保存・管理するための措置が前面に出され、TAC（総漁獲可能量）やIQ（個別漁獲割当）といった考え方が導入された。漁場の利用ルール形成を促しているが政府の資源管理措置による統治が強くなると考えられる。
- ・三重県の漁業生産量は全国で7番目くらいである。太平洋側であり、伊勢湾からリアス式の熊野灘まで特徴的な漁場が多くあり、漁獲される魚種も多いのが特徴である。
- ・全国の漁業生産量は、1980年代に1200万トンを超えていたが、近年では500万トンを下回る程になっている。要因は、マイワシの資源減少と200海里による遠洋漁業の水揚げが減少したからである。また、漁業者の減少と高齢化の問題も課題である。
- ・三重県でも若い漁業就業者を担い手として確保していく必要がある。若者が漁業へ就業するよう人材育成や就業支援を行う漁師塾を開設し、現在は約20名が漁業に従事している。
- ・環境問題は漁業にも深刻な影響を及ぼしている。三重県の沿岸域では5年間ほど黒潮の大蛇行が続いている。そのため、イカナゴやサンマは全く獲れていない。また、伊勢湾では貧酸素が原因でアサリが死滅し、貧栄養化で海苔が色落ちするといった事態が続いている。
- ・三重県漁連の2020年度取扱高は323億円で、全国では3番目の事業規模を誇る。県によって事業形態が異なり三重県は鮮魚の買取販売形式をとっている点が特徴である。
- ・漁業は、近年の地球環境において厳しい状況にある。しかし、安定して生産が可能な魚類養殖業は、今後の成長が期待される。国は魚類養殖業を成長産業と位置づけ、水産政策の改革を進めている。今後は、企業化や大型化がさらに進むことが予測される。
- ・漁業は、豊かな自然環境の形成や、海の安全・安心の提供、やすらぎ空間の提供といった多面的機能を有している。海難救助や、地域を守る役割も果たしている。

第7回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・漁業にはただ魚を得るという目的以外に多面的な役割があることを知った。生体保全や環境保全の取り組みに加え、海難救助、災害避難活動、さらには伝統文化の継承など様々な取り組みを知り、漁業の奥深さを感じた。
- ・私たちが当たり前に食べている水産物の中には牡蠣やブリ・ハマチ、真鯛などよく口にする魚が多くある。養殖と聞けば低コストで安定的に供給できる事業形態であると考えており、その為現在の養殖業者は安定していると捉えていた。しかし今回の講義で覆された。地球環境の悪化等による影響で安定的な供給が難しくなっている近年、独自の販売経路を有している企業などの参入により往來の養殖業者が競争に負けてしまう可能性が高くなってきたと講義で学んだ。海という大きなフィールドで企業によるスケールメリット活かした漁業をされたら往來の漁業は到底太刀打ちできないと感じた。対抗策としての漁業組合の繋がりを活かした企業立ち上げや漁師との協働、県のブランドとしての販売などはとても素晴らしいと感じた。漁業協同組合でないと難しいことであり、県の組合員にも奉仕できている。
- ・三重県は海に面している県であり、いろいろな漁業がおこなわれていることを知った。そして、そこに協同組合として県の漁業協同組合連合会が行っている活動を知ることができた。そこには、私たちがいつも何気なく生活で口にしている魚たちや海藻類などの養殖や漁についての分析が行われており、背景でこのような組合があるから私たちはいつもおいしい海の幸をいただくことができるんだと知った。
- ・大変だからこそ支え合っていくことが必要であることを感じた。今まで漁業においても、協同組合があることを知らなかった。そして、漁業協同組合は、購買事業や販売事業だけでなく、信用事業や指導事業などさまざまな事業を行い、漁業を支えていることがわかった。品質を向上させるために、三重県の産品をエサに添加するということには驚いた。さまざまな問題に対して、色々な解決策を試行錯誤して検討していることがわかった。
- ・最後にお話があったように、地域の過疎化や、学校などの施設が無いことが、その地域での漁業の衰退にもつながるといのがとても印象的だった。様々な取り組みが行われる中で、地域との関わりも大切にしなければ根本的解決につながらないということがわかった。
- ・漁師の方々が組合として結束することで、安定して漁ができ、販売やその促進といった面においても大きなメリットがあるとのことで漁協のもつ役割の大きさが認識できた。漁協も、今まで学んできた生協と同じように地域のコミュニティづくりに役立っていたり、監視ネットワークとしての役割を持っていたりという側面があると分かり、生活協同組合そのものへの理解も深まったように思う。直面している課題の解決については、漁協だけに任せるのではなく、わたしたちがそれらについて理解し、漁協や漁業を身近なものとして捉え、寄り添うことも大事なのではないかと考えた。今まで殆ど漁業や漁協といったものに関わることはなかったが、他府県と比べても多くのことをを行い、活躍している三重県の漁協について多くのことを知る良い機会となったと感じている。
- ・今まであまり触れてこなかった漁業について、地域振興を交えて知ることができたため多くの発見がありました。この講義を聞いて大切だと思った話題でも触れましたが、地域と漁業が深くつながっていることが一番の発見でした。限界集落や高齢化という地域の課題を解決する方法の一つとして、漁業の発信や塾の設立が行われている例や、年間生産尾数が少ないことを協力して周年出荷を可能にするという取り組みで、地域の経済状況を継続的に良くする例など、実際の活動と効果を見るとその繋がりの濃さが現れていて驚きました。また、三重県の漁連は日本の中でも大きい組織であるということも今回初めて知ったことでした。

- ・漁協に対しては、どのような役割を果たしているかをあまり知らず、なんとなく閉鎖的な組織であるというイメージを抱いていた。しかし、今日の話聞いてそのイメージは間違っていると痛感した。漁協は、漁業が抱える課題を解決するために奮闘しており、新たな事業を開拓するなど画期的な取り組みを行っていることを知った。私たちは普段何気なく海産物を口にしているが、そのような漁協の人々の奮闘があって成り立っているのだと感じ、感謝の思いで胸がいっぱいになった。
- ・三重県は南北に長く、海に面している幅も広いいため漁業は活発に行われているという認識しかありませんでしたが、もっと知りたいと思いました。地球温暖化によって変化したことや後継者問題について、またそれらの問題に取り組んでいる団体の実態についてより深く研究してみたくなりました。また、三重の特産物を餌にして養殖業の課題に取り組んでいることを知り、地域で循環している感じがして素敵だなと思いました。
- ・漁業は、生活に直結する職業であることから、地域活性化させる計画がかなり細かいと感じた。また、漁業を営む県には、それぞれの特徴があるために力を入れている事柄が異なっていることにすごく納得ができた。漁獲量が低下することに対して工夫をしていることも理解できた。また、三重独自のブランドを考えているということにも地元を活性化させるという強い心を感じた。
- ・漁業就業者数の減少と高齢化に対して、漁師を育てたとしても、集落そのものが存続しないと漁業が続いていかず、地域のコミュニティを並行して作っていかないといけないということを知り、複雑で難しい問題であるということが分かった。また漁業の市場への魚の供給以外での様々な機能についても気づかされ、改めて漁業の重要性を感じた。
- ・考えてみれば当たり前のことでありながら普段は意識することのない食卓を支える以外の豊かな自然の形成や海の安全といった漁業の多面的な機能を、本日認識することができました。同時に、厳しい状況の中でも存続させるために、漁師塾や「伊勢まだい」等様々な取り組みを行い、漁業に携わる人々を支える漁業協同組合、三重県漁業協同組合連合会の重要性を認識することができました。特に、小規模な事業者に対して巨大な投資額という問題に対応している漁業協同組合の信用事業、小さな経営体の要望に応えつつまとめ上げて道を協力して探っていくその姿勢が重要であり素晴らしいものであると感じました。
- ・漁業が直面している課題を漁協としてどのように対処しているかの話題と、漁業の多面的機能についてのお話が大切だと感じた。消費者に安定して供給をするためには安定した生産をする必要があり、個人では難しいため漁協として集まって漁をするという話に深く納得した。また、漁師の方々の役割として、単に漁をし魚の販売をするだけでなく、浜の環境保全や海の安全を守るためのネットワークの一部となっているなどの側面もあるという事実も大切だと感じた。
- ・漁連が地域の方とのつながりやその地域の問題を解決しようと様々な取り組みを行うことがとても大切だと思いました。ブリ養殖業者の経営が大変であるという大きな問題を漁連が協力し、中間魚までは個人の養殖業者が手がけ、中間魚になったら漁連が育てるといような取り組みを行うことでそれまで全て負担していた養殖業者も経営を安心して続けることができ、さらに漁連が地域の問題を解決しようとするこのような取り組みを行なっていることは素敵だと思いました。
- ・漁協は、漁業の面において多くの課題を抱えており、その中で漁業就業者数の減少と高齢化が大きな課題であるといえる。その中であって、三重県漁連は新規の漁業就業者を育成するために「漁師塾」という組織を立ち上げているということは漁業を未来に繋げていくためにとても大切なことであると感じた。

以上